

6 子どもの特性をふまえて

◎身長が低く、視野が狭い

大人に見えている危険が、子どもには見えていないかもしれません。

子どもに安全確認させる時は、

《止まって見る》

《首を左右に動かして、遠くまでよく見る》

ことが大切です。

また、子どもは死角に入りやすいという特性があります。

駐停車している車などの障害物があると、子どもの視界の妨げになるだけでなく、死角に入った子どもが運転者からも見えにくくなりますので、特に注意しましょう。



◎一つのことに気を取られると、周りが見えなくなる

保護者や友だちの姿を見つけて追いかけたり、遊びや会話に夢中になったりしている時など、周りの交通状況にまで気が回らず、道路に飛び出す危険があります。

また、気分にも左右されやすいので、子どもの様子がいつもと違う時は注意しましょう。



◎危険予測の能力に差がある

信号が青なら大丈夫・・・手を挙げれば車は止まってくれる・・・

子どもは単純に考えがちです。

実際は、信号が青でも曲がってくる車がいるかもしれませんし、運転者は歩行者を見ていないかもしれません。自分の身を守るために、

《自分で確認する》

《止まって待つ》

《右左右だけでなく、前や後ろの安全確認もする》

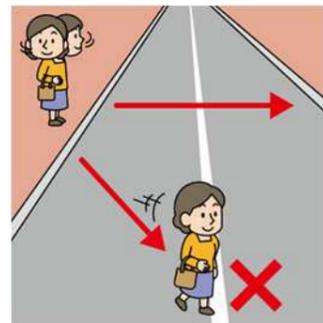
など、現場で繰り返し、具体的に指導しましょう。

日々の指導が子どもの習慣となり、交通事故防止へ繋がります。



◎大人の真似をする

子どもは善悪関係なく大人の真似をします。保護者はもちろん、身近な大人である皆さんも、日頃から交通ルールとマナーを守り、子どもの良い手本となりましょう。



子どもの安心安全な登下校と、皆さんの安全のため
ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

新潟市西区役所総務課



街頭指導要領



1 街頭指導の目的

◎子どもが安全に横断できるように【誘導】する。

子どもだけでなく、車や自分の安全にも留意しましょう。

◎子どもに交通ルールを【指導】する。

子どもが、自分で交通事故に遭わないように気を付けながら、安全に横断できるようになるために、道路の危険や交通ルールを繰り返し指導しましょう。

2 服装

運転者に見えやすいよう、目立つ色のスタッフジャンパー・たすき・反射材などを身に付けましょう。

履物は、動きやすい運動靴やかかとの低い靴を選びましょう。とっさの時に動きにくいサンダルやハイヒールなどはお勧めできません。

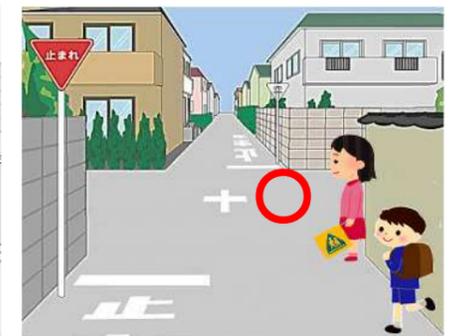
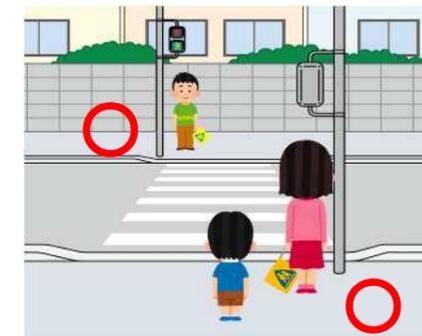
雨や雪の日はレインコートを着用すると、両手が塞がる心配がありません。



3 誘導の位置

◎適した場所

- ・運転者からよく見える所
- ・歩道上、もしくは車道の端
- ・周囲が見通せる所
- ・子どもに指導しやすい所



×適さない場所

- ・壁や電柱の陰など、死角になる所
- ・車道の真ん中
- ・自転車等の通行の妨げになる所



注意!! 道路の真ん中で身を挺して車を止めることは、とても危険ですのでおやめください!



4 基本的な心得と注意事項

① 権限行使はできません

横断旗には、車を止める権限はありません。
あくまでも運転者の協力を得て、止まってもらうという姿勢で行います。
車が発進する際も、指示するのではなく、会釈するなど合図を送りましょう。
車の発進停止は、運転者の意思に任せます。



② 車の切れ目を見ましょう

車は急に止まれません。時速40kmで走る車が止まるには、約22mの距離が必要と言われてます。雨や雪で路面が濡れている場合は、その距離はさらに長くなります。
横断旗は、車が止まるために十分な距離があることを確認し、余裕をもって、早めに出しましょう。
あらかじめ、目印や目標物を決めておくのも良いでしょう。



③ 決断力を持ちましょう

あいまいな動作や運転者にわかりづらい横断旗の出し方をしては、思わぬ事故の原因となります。
合図は自信をもって、大きくはっきり出すことを心掛けましょう。
二人以上で立つ場合は、リーダーを決めるなどして声をかけあい、タイミングを合わせて合図を出しましょう。

④ 確実に車が止まってから横断させましょう

横断旗を出しても、運転者が見落とししたり、気付くのが遅れたりして、止まらない車がいるかもしれません。その場合は、無理せず次の機会を待ちましょう。
横断歩道では、車の脇をすり抜けてくる自転車やバイクにも注意してください。
交差点では、右左折車が信号や歩行者を見落として事故になるケースがあります。運転者の視線にも注視し、車が確実に止まってから横断させましょう。



⑤ 信号を守りましょう

信号のある所では、信号のきまりを守って横断させましょう。
青の点滅や黄色信号で横断させないでください。



⑥ 道路状況にも目を向けましょう

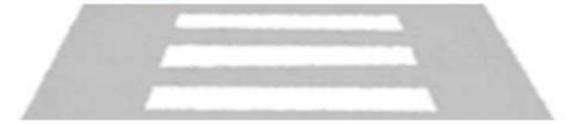
運転者を待たせすぎないように、適宜子どもの列を区切りましょう。
押しボタン信号のある所では、ある程度子どもが集まってからボタンを押し、まとまって横断させても良いでしょう。
大型車を止めると、後続車が前の様子が分からず無理に追い越そうとしたり、追突したりと思わぬ事故の原因になりますので、避けましょう。



5 横断旗の使い方

① 横断の機会を待つ

・横断旗を左手で持ち、子どもの飛び出しを制止します。
・子どもの胸の高さを目安に、地面と水平になるように出しましょう。
・車道から一步下がって待つよう、声をかけましょう。



② 合図を出す

・車の切れ目を見て、横断旗を右手に持ち替え、車道に向けて、斜めに出します。
(これから横断させますよ、という合図)
この時、子どもに横断の意思表示として、手を挙げるよう促しても良いでしょう。
・車や自転車などが止まらなければ、無理せず横断旗を戻しましょう。



③ 横断を開始する

・車が完全に停止したら、水平に下ろします。
・横断する前に、必ず子ども自身にも安全確認させましょう。
・運転者に良く見えるように、しっかり手を挙げて横断するよう声をかけましょう。



④ 横断を中断する

・子どもが渡り切ったら、横断旗を左手に戻します。
・子どもの列が長くなったり、車が渋滞している場合は、途中で列を区切りましょう。



⑤ 次の機会を待つ

・止まってくれた運転者に会釈し、感謝の気持ちを伝えましょう。
・運転者に発進の指示はしないでください。

